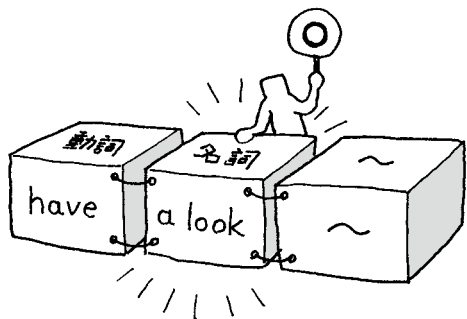


4-0 名詞の意外な働き

第4章では「名詞のさまざまな働き」について考えてみます。学校文法では名詞の扱いは、いわゆる普通名詞、物質名詞というような分類だけで通り過ぎている傾向があります。しかし、この章を読めば、**名詞には実にさまざまな働きがあることに気づく**ことでしょう。1つだけ例をあげておきましょう。

日本語ならば、ある動作を表すのにそのものズバリその動作を表す語を使います。たとえば、日本語で「絵を見る」の「見る」はこれ以外に代わりの表現は考えにくいですが、英語では look at the picture のほかにも、have [take] a look at the picture とも言えます。

英語では〈動詞＋名詞〉の形を使って、動作そのものの意味は名詞のほうに転嫁するという傾向にあります。特にこれは口語において顕著です。こうした名詞の使い方を覚えておくことが英語を使う上で役に立ちます。



4-1 英語は名詞から学習しよう

どの言語でも名詞と動詞が基本であることには変わりはありませんが、私たちはどちらに重点を置いて英語を学習したらよいでしょうか。日本人の英語学習者に精通している言語学者のクリストファ・バーナード氏は次のような提案をしています。

「私たちが新しい言語を学ぶとき、まず何からとりかかることが必要だと感じるでしょうか？ 基本的なコミュニケーションを満たすために何が必要でしょうか？ 私たちが、パプアニューギニアのジャングルで遭難したとしましょう。現地の人たちと意思を伝え合って生き延びるために、彼らのことばを学ばなければならないとしたら、私たちはまず『名詞』を覚えようとするのではないかと思います。『食べる』より先に『食べ物』を覚え、『飲む』より先に『水』を、『燃える』より先に『火』や『火事』を、『地面を這う』より先に『ヘビ』を覚えるといった具合にです。／もちろん、名詞を優先的に覚える1つの理由は、名詞（ここでは基本的な名詞に限ります）が他の品詞よりも簡単に識別がつき、すぐに理解できるからです。ものを指して、困っているのだという表情を浮かべれば、それをその土地のことばで何と言うかたずねることができます。同じように、彼らにとっても、外国人にことばを教えるには、身の回りのものの名前を教えるほうが簡単です。／だとしたら、**外国語を学ぶさいは、まず名詞中心に文法を覚えてみてはどうでしょう？**」

（『日本人が知らない英文法』プレイス）

では、名詞のさまざまな働きを見ていくことにしましょう。

4-2 動詞の要素を含む名詞

私たち日本人は、なんとなく名詞は静的なものであると考えるかもしれませんが、**英語の名詞はきわめて動的な (dynamic) もの**です。次の例を太字体の名詞に注目しながら見てください。

- (1) He has said the agreement shouldn't be signed until after the election, which some say illustrates his **reluctance** to step out of the limelight. (Reuters Dec. 2, 2013)
 「選挙が終わるまでその協定には署名すべきではないと彼は述べたが、それは彼が注目されなくなることを厭う気持ちをよく表していると言う筋もある」

上の文は少し複雑な構造になっていますので、まずその説明をしておきます。which は関係代名詞の非制限 [継続] 用法で、先行詞は前の文全体です。some say は some people say のことで、関係代名詞の後にきている挿入節と理解してください：

which(S) {some say}, illustrates (V), his ... limelight (O)

これは、..., and some people say that it illustrates his reluctance to step out of the limelight と同パラフレーズできます。

さて、reluctance は辞書を引くと「嫌気」「不承不承」「いやがること」などという訳語があります。しかし、この場合その言葉をそのまま使ったのでは誤訳になってしまいます。辞書に出ている意味をただ機械的に覚えるだけでは役に立たないことが往々にしてあるのです。his reluctance にはネクサスが内包されていることは第2、3章で見た通りです。すなわち his reluctance to step out of ... = he is reluctant to step out of ... と分析することがで

きます。reluctance は形容詞 reluctant から派生した名詞ですが、「～することを厭う気持ち」という動詞の意味が含まれています。

- (2) Mr. Mandela won **admiration** around the world when he preached reconciliation after being freed from almost three decades of **imprisonment**. (BBC Dec. 6, 2013)
 「マンデラ氏がほぼ30年にもおよぶ投獄から解放された後に和解を説いたとき、彼は世界中の称賛を勝ち取った」

ここでは、動詞から派生した2つの名詞である admiration と imprisonment が用いられています。admiration は admire、imprisonment は imprison という、いずれも他動詞から派生した名詞です。したがって、前者は「(人) 称賛すること」および「(人から) 称賛されること」、後者は「(人) 投獄すること」および「(人が) 投獄されること」の2通りに解釈することができます。どちらに解釈したらよいかは、文のコンテキスト(背景となる文脈)の中で決定されます。この場合は「称賛された」、「投獄されていた」とどちらも受動の意味があります。

このように、**英語の名詞には動詞の意味を内包したり、受動の意味を表したりする動詞的な要素が含まれています**。動詞からつくられた名詞には当然ながら、動詞の意味合いが含まれています。また形容詞も (1) でわかるとおり <be 動詞+形容詞> が内包されていますので、動詞的な意味合いが現れます。

動詞および形容詞から派生した名詞の代表的な例を下にあげておきます。〔 〕内はもとの動詞・形容詞です。

(I) 動詞から派生した名詞：

admiration (admire), approval (approve), arrival (arrive),
 belief (believe), consideration (consider), deceit (deceive),